令和６年度　全国高等学校選抜大会　「審判員報告」

Ｃ２　審判長　　黒須真希

１．採点上打ち合わせた事項

（監督会議での報告事項も含む）

①　適用規則の確認

採点規則 2025 年版　変更規則Ｉ

女子体操競技情報１号

②　採点指針の確認

③　新技申請

なし

④　監督会議の連絡事項

・適用規則の確認

・採点指針の確認

・スポッターマットについて

２．採点上起こった事項とその処理

特になし

３．その他　特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、Ｄ１審判を中心にスムーズに採点業務を進めることができ無事競技を終えることができました。

今大会は 2025 年版採点規則を初めて適用する競技会だったため、審判会議ではＤ１審判を中心に丁寧に確認を行いました。変更規則Ｉについても、内容を変更しているため合わせて確認を行いました。また、2025 年の採点指針について、全体で確認を行い、さらに各種目でも細かく確認を行いました。2025 年の採点指針は全体として身体の細部までコントロールされた常に美しい姿勢での演技」「欠点のない正確な技の実施」「着地の先取りができた高い体勢での安定した着地」の３本の柱となります。採点指針に挙げている内容は、昨年と同じ内容となっており、日本全体で強化していくべきことです。実際に出場選手の演技を見ていて、姿勢に対する意識ができている選手が増えたように感じました。また、技の実施についても、未完成な状態でやみくもに演技に組み入れている選手はほとんどみられなかったと思います。

夏の競技会に向けて、各選手の課題を解決できるようトレーニングを積んでいただければと思います。

Ｃ２　跳馬

Ｄ１審判員　香月　あゆみ

１．採点上打ち合わせた事項

① 採点指針の確認（情報１号）
・Ｄスコアの高い跳躍技の実施
・跳躍全体にスピード感があり、高さと距離を伴うダイナミックな実施
・着地の先取りができた高い姿勢での安定した着地
上記採点指針をもとに、各審判が各跳躍の理想像を持って採点を行うこと。第一空中局面の膝の曲がりや脚の開き、支持局面のひねり不十分、着地の姿勢に特に注視し、各局面において著しい技術不良や、危険を伴うような未完成な跳躍、ダイナミックさに欠ける跳躍に対しては、第 9 章「減点表」、第 10 章「種目特有な実施減点」の項目を有効に使用し、厳密に減点することを確認した。また、2025 年版採点規則の変更規則Ｉにおいてグループ１の跳躍のみに適用の減点項目の確認を行った。

② アシスタントの任務内容を確認
・練習回数と１回の練習とカウントされるものの確認
・境界線の踏み越しについての確認
・監督からの再確認の要求に対応できるよう、すべての過失の記録は残しておく

２．その他、採点上起こった事項とその処理
特になし。

３．その他特記事項・意見・感想
跳躍を実施した選手 56 名中、Ｄスコア 5.00 以上の跳躍を実施した選手は１名、4.20 以上の跳躍を実施した選手は 37 名であり、第２空中局面で１回ひねり以上の跳躍技に取り組んでいる選手が７割程度でした。
Ｅスコアについては、9.00 以上の選手は 13 名であり、支持局面からの突きあがりにスピード感があり、高い姿勢で安定した着地ができるダイナミックな跳躍が見られました。その一方でＤスコアの高い跳躍技を実施しても、第１空中局面での膝の曲がりや脚の開き、支持局面での腕の曲がり/肩角度や規定されたひねりの時期が早すぎるなど各項目 0.30 以上の減点が伴うような跳躍、または回転が不足しており、着地の先取りができず低い体勢での着地になってしまう跳躍については、高いＥスコアを獲得することはできませんでした。
2025 年採点指針では「Ｄスコアの高い跳躍技」を推奨はしていますが、著しい技術不良が見られ、安定した着地ができない実施については厳密に採点することとしています。難しい跳躍技に挑戦する際には、前段階の技が日々の練習で実施減点が少なく雄大で着地の先取りができているのかを確認していただき、その上でＤスコアの高い跳躍技に挑戦していただきたいと思います。

Ｃ２　段違い平行棒

Ｄ１審判員　志村　美紀

１．採点上打ち合わせた事項

（１）採点指針の確認（情報１号）

①腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施

②車輪系の技や支持回転系の技、空中局面を伴う技の振幅が大きいダイナミックな実施

③多様な空中局面を伴う技を組み合わせ、高いＤスコアを獲得できる演技構成

・①②を重視して採点を行う

・③については、①②を満たせた上で実施できている場合に評価する

・採点上の留意点にある「け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技などの基本技の姿勢」「各技の振幅の大きさ」においては特に注視する

・指針に沿わない演技には減点項目に則り厳密に減点をするとともに、指針に沿った演技とはＥスコアにて明確に差をつける

（２）短い演技についての確認

「短い演技」とＤ審判団が判断した場合は、技の実施数によりＥスコアの最高点が変わるため、その都度承認した技数をＥ審判団へ口頭にて伝えることを確認した。

（３）アシスタント任務の確認

計時の任務内容（練習時間・中断時間の計り方）を確認した。また、中断時間の計測開始を避けるために故意に立ち上がらない場合、中断時間中に止血が必要であると判断された場合、終末技が胴体着地の場合についての対応も確認した。さらに、コーチから計時の減点の再確認の要求があった際には速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことをお願いした。

２．採点上起こった事項とその処理

（１）Ｅスコア・最終スコアの訂正１件

システムの不具合により誤ったＥスコアおよび最終スコアを掲示してしまったため、審判長に報告のうえ再度掲示を行った。

３．その他特記事項・意見・感想等

今大会、大過失のある演技が少なかったように見受けられました。また「低棒外向き支持～後方浮支持回転倒立～背面とび出し～上移動高棒懸垂」いわゆる“シャポシニコヴァ”系の技に挑戦している選手も多く、Ｄスコアの向上を目指している様子もうかがえました。しかし未完成の技も多く、基本的な支持回転系の技が振幅を伴って実施できていないままに挑戦しており、大きな減点を伴う実施もありました。特に、空中局面での身体の姿勢や技の高さ、高棒懸垂後の振幅の大きさに関しては、基本技が習得できていない選手

には多くの減点が見られました。基本技を丁寧に確実に習得したうえで、高難度の技に挑戦してほしいと感じます。

しかし一方で、Ｅスコア 8.00 以上を獲得した選手は 15 名であり、全 57 演技中の約 27%を占めました。8.00 以上を獲得できた選手は、倒立姿勢のみならず、振り上げる際の姿勢にも気を配っていたり、振幅のあるダイナミックな演技をしたりすることができていました。特に倒立姿勢は、取り組んでいる選手とそうでない選手の差が明確にあったように思います。け上がり、後ろ振り上げ倒立、車輪系、支持回転系の技などの基本技を美しい姿勢で、振幅のある中で実施できるようにすることが、高いＥスコアの獲得、そしていずれは高いＤスコアの獲得につながります。それらを大切にしながら、これからも練習に励んでいただきたいと思います。

Ｃ２　平均台

Ｄ１審判員　大川由美子

１．採点上打ち合わせた事項

・採点指針の確認

体操競技情報１号に記載されている平均台の採点指針を確認し、併せて 2025 年版採点規則に基づき変更規則Ｉの変更点についても確認した。

常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技。正確な技の実施による完成度の高い演技。あくまでもこれらを満たした上で、高いＤスコアを獲得できる演技構成であれば、評価し採点を行うこととした。芸術性についても注視し、変更規則Ｉにおいての芸術性と構成の減点項目を確認しながら、指針に沿った演技とそうでない演技は減点項目に則り明確に差をつけることも併せて確認した。

Ｄ審判については 2025 年版採点規則で技の承認において変更があった部分を中心に打ち合わせた。

・アシスタントの任務確認

計時審判の任務の確認

（練習時間、演技時間・中断時間の計測・終末技が胴体着地の場合の対応など）

減点があった場合はメモなどで記録を残し、コーチから確認があった際にも対応できるよう確認した。

２．採点上起こった事項とその処理

特になし

３．その他　特記事項・意見・確認等

今大会では2025年版採点規則を初めて適用する大会でしたが、新たなルールに沿った構成や実施が多く見られました。

構成要求（ＣＲ）においては、一部、実施の状況によりＣＲ満たせない演技があったものの、全ての選手の予定していた演技は４つのCRを満たす構成となっていることが予測できました。積極的に組み合わせ点（ＣＶ）を得るための構成にチャレンジしている選手も多く、全演技の４割超の選手が獲得できており、その最高値は0.60でした。また、Ｄ難度以上の終末技の実施で終末技ボーナスを得られた選手は10名です。

Ｅスコアにおいては8.00以上のスコアを獲得できたのは5名で全体の10%に満たない結果となりましたが、落下を伴い残念ながら8点台とならなかった選手も数名います。（参考：7.50以上8.00未満 約25.4%、7.00以上7.5未満 約27.2%、7.00未満 38.1%

*演技実施選手数を分母としています）全体的に例年と比較しても、美しい姿勢や芸術性を意識した演技が多くなったように感じました。その中でも今回の採点で特に気になったのは以下の４点です。

・姿勢欠点や芸術性と構成の減点が少ない演技が多くなったものの、落下や大きなふらつきが複数回発生するなど、落下や大きなふらつきが複数回発生するなど、なかなか高いＥスコアに結びついていないこと
・アクロバット系の技の着台姿勢で減点（特に頭が下がった着台姿勢）となる演技が多かったこと
・「調整」の減点がかなり多く、各0.10の減点ではあるが、多くの選手は複数回調整が入っていたため、調整だけでも減点が嵩んでいたこと
・芸術性と構成の減点項目にある「横向きの動き」や「胴の一部が台に接する平均台に近い動き/技の組み合わせ」で、条件を満たせずに減点される演技が多く見受けられたこと

一つひとつの技の姿勢欠点は少なくなっているように感じるものの、落下や大きなふらつきなどが多い印象で、安定感のある演技を、より意識していただきたいです。

また、技の実施への集中からか無意識に１歩踏み出し、前述の「調整」の減点の対象となってしまう演技もあり、日頃の通し練習などでもぜひ注意してください。

「芸術性と構成の減点」においては、その一つひとつの項目内容を確認いただき、どのような実施（演技）であれば減点なく評価されるのか、何が足りずに減点されてしまっているのかを確認していただきながら、技以外の部分にも着目しその選手に合った演技となるよう、今後の大会に向けて練習に励んでいただきたいと思います。

Ｃ２　ゆか
Ｄ１審判員　白川千尋

１．採点上打ち合わせた事項

① 採点指針の確認（情報１号）

常に体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技、技の高さがあり着地姿勢までコントロールされた正確なアクロバット系の実施、ジャンプ・リープ・ホップに高さと身体のハリがありコントロールされた正確なダンス系の実施、最大限に身体を使い表情を含め表現力豊かな実施、以上の指針をもとに各審判員がゆか演技の理想像を持って採点を行うことを確認。また、変更規則Ｉにおいて減点幅の大きくなっている芸術性と構成の減点項目も併せて確認しました。アクロバット系でもダンス系でも高さがあり姿勢欠点が少なく技が完成されており、なおかつ身体の姿勢や足さばき・動きの大きさまで意識された表現力豊かな演技を評価することを採点のポイントとし、指針に沿った演技とそうでない演技は明確に差をつけることを確認しました。

② アシスタントの任務内容を確認

・計時および線審の任務内容確認

・コーチから減点に関する確認があった場合に対応できるよう、過失の際はメモなどで記録を残す。

２．その他、採点上起こった事項とその処理

特になし。

３．その他　特記事項・意見・確認等

今大会は新しい採点規則による初の全国大会でありましたが、全体として転倒などの過失が少なく、終末技の着地までまとまった演技が多い印象でした。

Ｄスコアに関しては 57%の選手が組み合わせ点を獲得しており、中には 0.20 の組み合わせ点が獲得できるＣ＋Ｄの間接の組み合わせやＤ＋Ｂの直接の組み合わせに取り組んでいる選手も見受けられました。終末技をＤ難度で終えて終末技ボーナス 0.20 を獲得できた選手は全体の 38％でした。ダンス系の技において、実施しようとした難度点が承認されず異なる技として承認されたものは 12 技であり、その多くはひねりを伴うリープ・ジャンプやターンでの要求が満たせていないものでした。

Ｅスコアに関しては、実施減点・芸術性の減点が少なく 8.00 以上のスコアを獲得できたのは７名（13%）、最高Ｅスコアは 8.45 でした（7.95～7.50 は 25%、7.45～7.00 は 30%、6.95～は 32%）。8.00 以上の選手は、アクロバット系の技にもダンス系の技にも高さがあって着地姿勢やステップの減点が少なく、動きの場面でも身体の姿勢・足さばきがどの瞬間も美しく、音楽のテーマに合った表現が伝わってくる演技でした。

これから本格的な試合シーズンがスタートしますが、情報１号の採点指針で示している美しい姿勢、アクロバット系・ダンス系の完成度、豊かな表現力をよく理解していただき、ただ演技するだけでなく、「どのように技を見せるのか、どのように演じて伝えるのか」まで追求し、観客や審判にゆかの演技を披露するようなつもりで練習に励んでいただきたいと思います。

夏の高校総体では、技の完成度が高く表現豊かな演技がたくさん見られることを心から期待しています。

以上